



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

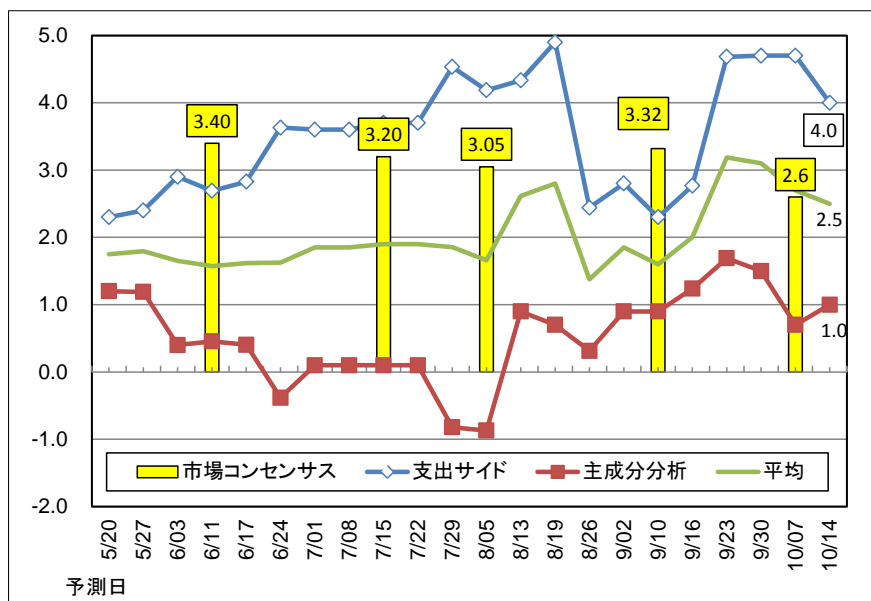
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年10月14日)

ポイント

- ▶先週(10/7-10/11)に更新されたデータは、民間最終消費支出、民間企業設備、政府最終消費支出、純輸出及びデフレータの予測に影響する。
- ▶8月の消費総合指数は3ヵ月ぶりの前月比プラスとなったが、7-9月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から横ばい。8月の公務等活動指数は2ヵ月連続の前月比マイナス。7-9月期の実質政府最終消費支出の予測値は先週から小幅下方修正。
- ▶9月は交易条件が悪化したものの、経常収支が下振れた。結果、7-9月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。
- ▶この結果、今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+4.0%と予測する。先週の予測(+4.7%)からは下方修正された。
- ▶コンセンサス予測は7-9月期の実質成長率を同+2.60%と見込んでいる。超短期モデルの予測平均値(+2.5%)に似た値となっている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<超短期予測は7-9月期実質成長率をコンセンサス予測より高く見る>

先週(10/7-10/11)に更新され予測に用いられたデータは、9月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、8月の消費総合指数、第3次産業活動指数、民間機械受注、情報サービス業売上高及び国際収支状況である。これらのデータは民間最終消費支出、民間企業設備、政府最終消費支出、純輸出及びGDPデフレータの予測に影響を与える。

8月の消費総合指数は前月比+0.1%上昇し3ヵ月ぶりのプラス。この結果、7-9月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から横ばいとなった。8月の民間コア機械受注は事前予測を上回ったが、資本財価格指数が上振れたため、7-9月期の実質民間企業設備の予測値は先週から小幅下方修正。8月の公務等活動指数は前月比-0.4%低下し2ヵ月連続のマイナス。7-9月期の実質政府最終消費支出の予測値は先週から小幅下方修正された。9月は交易条件が悪化したものの、経常収支が下振れた。結果、7-9月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。

この結果、今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+4.0%と予測する。内需の寄与は前期から拡大するが純輸出の寄与は小幅のマイナスとなる。先週の予測(+4.7%)から下方修正。10月のコンセンサス予測(ESPフォーキャスト調査:10月10日)によれば、7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+2.60%と見込まれている。超短期予測の支出サイド、主成分分析モデルの予測平均値(+2.5%)とよく似た値となっている。

今後の見通しについては、17日発表の8月の公共投資(建設総合統計)と21日発表の9月の貿易統計が当面の注目指標となる。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690